
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 357 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.09.12 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,082 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> アフガニスタンに見る食と農業の重要性 渡邊 博

<山崎農業研究所 37 回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演 (速報要旨) >

1. 山崎記念農業賞表彰式

(2) 受賞者ご挨拶:長野県辰野町 倉澤久人氏 (オンワード倉澤代表)

<投稿> 総意なき TPP 交渉参加では守るべきものも守れない 益永八尋

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.130』発行されました

<編集後記> 「日本のコメは高い」か…

<巻頭言> アフガニスタンに見る食と農業の重要性

アフガニスタンで灌漑施設整備の指導にあっている医師、中村哲氏 (ピースジャパン・メディカル・サービス) の講演を聴く機会があった。医師でありながらなぜかながい施設の整備に尽力されているのか興味があった。当初は医師として現地に入ったのだが、病気の根源は飢餓であり、これを改善しなければいくら治療してもイタチごっこであると気づいたようだ。

日本から見るとアフガニスタンは、テロとの戦いだけが強調されがちだが、現地から見れば、政府、反政府がどうのこうのということには興味無く、水と食料をどのようにして確保するかが住民の最大の関心事である。そして集落はほぼ例外無く武装化されているので、食料を得るためのお金をくれるのであれば、政府軍だろうがタリバンだろうが関係なく傭兵になる。

アフガニスタンの飢餓は地球温暖化による農地の砂漠化が最大の要因だという。少なくともアフガニスタンに居ると地球温暖化は確実に進んでいることを

実感するとのこと。意外なことに河川には豊富な水量が流れている。アフガニスタンには5千、6千メートル級の山々があり、豊富な雪が自然の貯水池の役割を果たしている。

中村氏は、この豊かな河川水を利用した農業用水路を整備すれば、以前のように青々とした農地が復活し、飢餓や病気から解放され、内戦に参加する必要もなくなると考えたという。実際、水路が整備されたところは見事に農地が復活し、都市部に流出していた多くの住民が村に戻ってきているという。もちろん傭兵になる必要もなくなるのである。

アフガニスタンに本当の平和を築きたいのであれば、対テロ戦争などではなく、水と食料の確保を実現することである。それも単なる食糧支援ではだめなのである。中村氏の活動は住民自らが水路の建設に参加し、管理も住民自身が行い、自ら営農する、すなわち自立と持続性に根差した農業と農村の重要性を示唆している。振り返って、TPP参加は全くこの方向と真逆の道を選ぼうとしているのではないかと考えてしまう。日本はアフガニスタンとは違う、などと高を括ってはいけない。自国の食料を他国に委ねる国はいつか滅びるのは歴史が示している。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 37回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演（速報要旨）>

期日：2013年7月27日（土）13：30～

場所：NTC インターナショナル

1. 山崎記念農業賞表彰式

- (1) 選考委員長報告
- (2) 受賞者ご挨拶

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

- (1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

渡邊博氏 山崎農業研究所幹事

- (2) ここまで進んだ小水力発電

新谷和男氏 NTC コンサルタンツ・小水力発電グループ代表

1. 山崎記念農業賞表彰式

(2) 受賞者ご挨拶：長野県辰野町 倉澤久人氏（オンワード倉澤代表）

すでに選考理由に十分に説明されている。とくに付け加えるとすれば、戦後何もない時代、少年時代には、もの作りが好きだったので、缶詰の缶を利用して水車を作った。それを使って近くから引き水をして発電した。水がただ流れていたのでは、もったいないと思ったからである。

20歳の時、日立の会社でモーター修理の仕事をしたが、故障の多くはモーター焼けであった。この経験が今も生きている。10年ほど前、大学の先生が小水力発電の実験をするというので見に行ったが、あまり感心しなかった。回転で生ずるエネルギーロスの問題がある。高速になれば、このロス（磁気吸引）が大きくなる。

自分はこれ以上に良い効率のものをつくれと思った。用水も水利権問題はあるが、現在は、許可されやすい状況になっている。現在全国で多くの人がこの発電装置を使ってくれて、その耐久性、維持管理の容易さが評価されている。今後これを応用して多くの分野に広げていきたいと心がけている。

（文責 安富・田口）

<投稿> 総意なき TPP 交渉参加では守るべきものも守れない

現在 TPP（環太平洋パートナーシップ）交渉が行なわれている。しかし、この交渉では「守秘義務」を理由に交渉内容が公表されていない。交渉内容を知っているのはほんの一握りの政府要人や官僚だけである。ここに TPP 交渉のいちばんの問題がある。

条約とは、国民の声を代表するとされる政府間で結ばれる契約書（協定書）である。今回の TPP 交渉は「守秘義務」のもとでの交渉になっている。このため、「交渉内容が公表できない」という政府の説明は、それだけ採れば納得できる、止むを得ないと考えている国民も少なからずいる。問題は、政府説明にではなく、「守秘義務」が課されている TPP 交渉そのものにあるのだ。

個人と個人の契約（条約）において、交渉内容を他人に知らせることを禁止

する「守秘義務」はあっても問題ないだろう。しかし、TPPは国民多数の生活に直結するものであり、個人と個人の契約ではない。政府は、「守秘義務」があることを知りながらも、交渉参加に入った。このこと自体が、安倍内閣の反民主的な性格・本質を明確に表わしている。

この反民主的な性格・本質はTPP問題だけでなく他の分野での問題（外交・防衛問題をはじめとする諸問題）においても現われている。TPPに関して安倍総理は「国益を守ることができるかどうかを中心に置きながら……」（2012年12月26日）と言っているが、その言葉の真意をつかむ必要がある。国益を守る＝（大多数の）国民の利益を守るというものの、「国益」という言葉が使われる場合、大多数の国民が利益（幸福を含む）を得た現実より、利益を失った現実と歴史がある。

TPP交渉参加への政府の公式表明をみても（「日本のTPP交渉への正式参加について」。平成25年7月25日 TPP政府対策本部長 甘利明）、「守るべきは守り、攻めるべきものは攻め」という言葉を2回使っているが、何を守り、攻めるかは全く明らかにされていない。

国際交渉における最大の武器は国民の総意である。これが無ければ、政府内では通じても交渉相手国には説得力がなく、負けるのは目に見えている。政府の公式見解は言葉だけが勇ましいだけで、武器にもならない。大多数の国民が納得していないTPP交渉参加では守るべきものも守れないと言わざるをえない。交渉を有利に進めるためには相手に手の内を見せない（＝秘密主義）が必要との理屈であるが、これ自体は一見正しいように思えるが、これは民主主義が発達していない時代での戦略・戦術であり、時代錯誤したものの考え方である。現代に必要な戦略・戦術は民主主義に基づいた、情報公開と国民の総意である。

益永八尋

山崎農業研究所会員

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.130』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.130』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

山村の未来を思う◎栗田和則

[第144回定例（現地）研究会]

ワークショップ：「果樹王国ふくしま：産地再生に向けて」

・研究会の概要

【基調報告】ベラルーシ現地視察をふまえて◎今野文治

【解題1】住民参加型産地再生・再興へ◎小泉浩郎

【解題2】放射性物質：汚染・除染の考え方◎渡邊 博

【解題3】産地再興：歴史に学ぶ◎石川秀勇

【解題4】風評被害：そのメカニズムと対策◎家常 高

○分科会報告

○参加者の声（櫻井 勇／益永八尋／佐々木哲美）

[特別寄稿]

畜産を農業に回帰させ持続する農業を構築しよう◎本田廣一

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(3)人間中心主義への批判◎宇根 豊

〈農村定点観測〉

○ミズバショウの里のむらづくり／山形県・照井栄市

○高温対策に備えた稲づくり／新潟県・吉原勝廣

〈追悼・山田民雄さん〉山田民雄君は劇作の先立ちだった／松坂正次郎

<編集後記> 「日本のコメは高い」か…

業種や立場のちがう人間たちと話すと、自分が当たり前だとする考えが相手にとってはそれこそ常識外れであるということに気づかされることがある。

先日は「日本のコメは高い」という発言を聞いた。話を聞くと10kg4000円くらいのコメの値段のことを言っているらしい。

「高い」か…。では何と比べてなのだろう。携帯に月々払う金額と比べて？ 1回の飲み代と比べて？ それとも海外と比べて？ コメ農家の時給は200円以下（平均値）なんだけれども…

「高い／安い」という価格だけで論じられた日には、日本のコメだけでなく村（地域）も自然も水も守れない… というわたしのような考え方はなかなか通じないようであった。

なんとなくくすぶったままで数日過ごした後、農と自然の研究所（宇根豊氏代表）のホームページをひらいてみた。

今月の思想

<http://hb7.seikyoku.ne.jp/home/N-une/kousin2009/kongetunosisou1.html>

をみると、

◎彼岸花のナショナリズム

経済価値だけでは国境は守れない（2013年6月）

◎農の土台は市場経済からはずせ（2013年7月）

◎足下の自然をナショナルな価値にする政治を

多面的機能の危機に目をつぶるな（2013年8月）

といった（わたしにとっては）刺激的なタイトルが並んでいる。

うれしくなって宇根さんにメールするとこんな返事があった。

「価格だけで論じる消費者はきっと自然と切れているのでしょう。そこにあるのは近代の人間中心主義の、無意識の到達なのでしょう」

「食べものとは生きものである。この基本的なことが、人間中心主義ではわからないのです」

大要こんな感じだが、わたしには宇根さんの言いたいことがよくわかる（つもりである）。が、「日本のコメは高い」と言う人々にとってはやはり伝わりにくいのか。

「日本のコメは高い」か… の「か…」とはながく付き合っていかななくてはならないのだろう。

2013年09月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 358 号の締め切りは 09 月 24 日、発行は 09 月 26 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 357 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.09.12（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

*****ここまで『電子耕』*****